# フィールド（現場）からの風 ⑫

宮田守男

## 降雪などの自然状況を乗り越えるリゾート地にするための知恵の必要性を本気で考えてみませんか

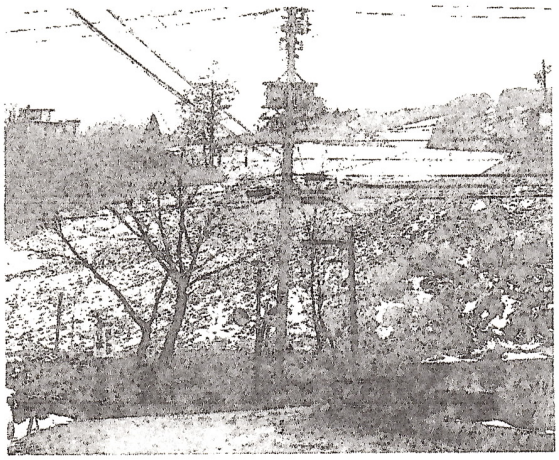
暮らしやすい出来事や、意欲的な施策の取り組みを願って、新年を迎えた大北地域。しかし12月には、期待した降雪に恵まれずキャンセルが続発した。暖冬との情報も多く聞かれるが、世界を見れば言い切れない気象現象も多発。

12月中旬には、サハラ砂漠で37年ぶりの「砂漠の雪」、サウジアラビアでも雪が降り続き、ここ2・3年の中東の気候は明らかに過去数百年とは違うとの報道。また北米・カナダは氷点下50度に近づき「北極より寒い」状況、アメリカの各地で100年以上の記録を破る桁外れな寒波。だが昨年4月には、アメリカ航空宇宙局の気象学者が、世界の気温と海水温が観測史上最高を記録したと発表し、「2016年は史上最も暑い年になる」との警告。米アラスカの永久凍土の中で3万2000年生き続けた新種の細菌微生物が発見されたとの情報とともに人類の知らない細菌やウイルスが人類を滅亡に追い込むとして温暖化の問題が世界に発信された。北極圏の温暖化では海氷が消失の情報とともにツンドラも、解けはじめ、地表の異変の映像が世界に発信された。

年末の1年を振り返る気候に関連した報道でも世界各地で異常現象が続いている。冬は当たり前に雪が降る、との気候を信じる経済基盤で成り立つ地域である大北地域。降雪に一喜一憂しながら地域経済を考える現況に本気で立ち向かう勇気を奮い立たせる年になってほしい。

地域では、外国資本の急激な流入によって地域に明るい話題を聞く機会が多くなってきている。たしかに、空き店舗が、短期間で営業施設として登場。空き家がないとの情報も聞こえてくる。「あの物件は、外国人が購入。金額は億単位」の景気の良い話。高度成長期の折、大北地域の自然に魅力を感じ、定住した経営者も高齢期を迎え、積極的に売りたい要望と買いたい要望が活発な事は良い事だ。しかし、売買実例は、固定資産税の評価や、相続税の評価にも密接に関係することも事実。評価が見直される状況を好まないと考える人も多い。どの様な地域として後世にバトンを渡すのか。現況を乱開発とみる視点が大切だ。バラバラな考えで地域デザインをしてはいけないことを知る地域で、生活を営む人こそが、主役となって地域を考えてほしいと思っている。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



12月下旬の八方スキー場下部に非情の降雨、厳しい自然現象は今後毎年続くのだろうか